

CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル＝エミール・ジャック (1813～1894)



作品名 牛飼い

種類 パネル油彩

サイズ 46.0×38.0cm(仏8号)

※Michel Rodrigue 鑑定書付き

略 歴 バルビゾン 七星の一人

1813 パリに生まれる。

地元の版画職人の見習いに入る。

1830 その後、志願して6年間軍隊生活を送る。
兵役後、渡英。イギリスにてシェークスピアの挿絵を制作(約2年間)
フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)

1840 頃 モンマルトルの風景を描き始める

1845 エッチング(版画)でサロン入選。
その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。

1849 暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバルビゾンに移住。
ミレーとは隣り合った家に住む。
その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く

バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって
油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に
反映し、羊の群れと羊飼いという牧歌的な主題を写實的に描いて
たちまち人気画家となった。

1861 サロンに絵画を初出品、3等賞、64年に2等賞を得た。

1867 レジョン・ドヌール勲章を受章する。

1889 パリ万博で絵画部門金賞と版画部門大賞を受賞する。

羊と羊の群れを多く描き【羊飼いの画家】として知られ、羊の性質などを微妙に捉え、温かく描き出し【羊のラファエロ】と呼ばれ人々の人気を集めた。

1894 パリで没。バルビゾン派の中でも最も長命であった。